

皇后宮春秋歌合 天祿四年四月晦日

判者

内大臣頼宗

歌撰者

左大臣頼宗

右大臣家

讀師

左大臣房

右大臣隆俊

論議師 皇太后御 皇太子御 皇孫御 皇女御 皇孫女御 皇孫女御 皇孫女御 皇孫女御

一番

左大臣時宏

内乃式部令婦

美代はさる人かぶさるて美代母へと君は社々続

右 八月十五夜月 伊賀大輔

くもりなき元此夜とてゆかたあふ此夜をゆく照と月影

二番

左大臣春日宗

範永

美代はさる日の心乃神も素とあめの下よ八君をさる人

右 七夕多糸 内侍古佐

美代は君をさるへとたかうこのはあひの夜と雲のさる



三番

左勝梅

右大長

春のよめをたのむ梅の花をたのむの嵐をたのむ

右

下野

あく弱の敷より外もよそへつゝ八雲の清みれ歌をたのむ

四番

た常

宮大史隆國

山皇の垣根よ春やあけのつゆとまのつゆよ春の世をたのむ

右

弟濃

ねやまじおとこやんま秋萩よ春も心をけぬいとあふ

五番

た縁  
子白

頭中將

浮世とらとては海よ春の世のつゆとまのつゆよ春の世をたのむ

右

伊勢大將

小夜更し旅の宵をては鳥居とつゆとまのつゆよ春の世をたのむ

六番

たお梅

相模

岩守とらあよ春をたのむ梅の花をたのむのうらうらとて

右

伊勢大將

秋乃萩の山田のいや八福妻の光りよ春もつゆとまのつゆ



七番

た青柳

宮内侍

この人のゆかりけくく物ハ名よきみなる青柳乃縁

右 縁 りみち

民部卿長家

大井河津はせもたぐ秋帯を紅葉の園と成るるる

八番

た 残雪

但馬

都立ちて物ゆかりとハ名よき江の若菜のゆかり

右 縁 菊

民部卿

紫はうとあつとる二葉も葉よはとめり

九番 祝

た 猪 祝

源三位俊賢

長濱乃美砂乃教もあつとるははとせはあ君は代る

右

大夫隆國

恒乃江生世の枝をよ君のちとせの数をあつとる

右 清書

た 兼行真名

右 任弼母

右天長四年四月晦日後冷泉院皇后宮祓合也